

明るい未来のために

加古川市立浜の宮中学校3年 毛利 優那

私たち中学生が税金と聞いて、正直ぱっと思い浮かぶのは、「消費税」くらいかもしれない。なぜなら日常生活の中で、私たちにも大きく関わっているからだ。今は、駄菓子一つにも税金がかかる。少ないお小遣いの中から支払うことになるのだから、消費税が上がるというニュースを聞くと、私にとっては一大事である。しかし、知らなかった。税金がこんなにも私たちに身近なもので、こんなにも日々助けられていたことを。税について調べるまでは。

「二年半、よく頑張ったね。お疲れ様でした。」

主治医にそう告げられ、この夏私は一つの区切りを迎えた。

真新しい制服に身を包み、二年前の春私は、市内の中学校に入学した。全てが新鮮で、少し大人になったという照れくささと、これから始まろうとする中学校生活に期待と、不安で胸がいっぱいだった。そんな中、私が一番気になっていたのが部活動。先輩方が、グラウンドで一生懸命汗を流している姿を見て、陸上部へ入部することに決めた。種目は投てき。身長が高いわけでもなく、一見小柄に見える私であったが、練習を重ねるたび、記録がどんどん伸びていき毎日の部活が楽しくて仕方なかった。いつも通り、シューズを片手にグラウンドへ向かい、アップを始めたその時、腰に違和感があることに気づいた。その違和感は日に日に強くなり、ある日歩くことさえも、できなくなった。母親に連れられ病院に行き、私に下された診断名は、「分離症。」MRIで詳しく調べると、腰二ヶ所にひびが入っていて、その日から八か月の運動停止をよぎなくされた。

「日に日に記録も伸びてきたのに、なんで…。」

目の前が真っ暗になった。週に一度のリハビリと二週間に一度の診察、さらに高額なコルセット、今まで気にしたことはなかったが、先の見えない治療に、子供ながらに高額な医療費がかかるのではないかと心配していた。しかしその一部には税金が使われていることを知った。ほとんどの医療費は国が負担してくれているため、いざという時、救急車を利用してもお金がかかることはない。医療費だけでなく、教育費、生活環境費、都市の整備費など、私たちが生きていく中で普段気にしない、当たり前だったことのほとんどが、税金によって私たちの暮らしを支えてくれているということが分かった。一人一人ができる、わずかなことで救える命もあるだろう。

今は、私たち中学生には数百円にかかる消費税しか貢献できないが、それでも私たちができる大きな社会貢献の一つだと、私は思う。そして、大人になったときにはしっかりと税を納め、一人でも多くの人を支える社会人でありたい。これからの明るい未来のために。